

学生アンケート調査結果の報告

2007年4月実施新入生編

平野 緑・高橋 徹*

愛知みずほ大学人間科学部人間環境情報学科

*愛知みずほ大学情報教育センター

本学では過去に3回の学生の意識調査を行っている。初回は2000年4月、2回目は2005年4月に、全学生を対象に調査した。3回目は2006年4月に、新入生だけを対象にしたアンケートを実施し、結果を紀要第1号に報告した。今回は、前年同様2007年4月に新入生を対象に実施したアンケートをまとめたものである。

アンケート回答者数は以下のとおりで、入学者のほぼ全員である。

表1 アンケート回答者数

	1回生	編入生	計
健康	46	34	80
心理・心理カウンセリング	39	2	41
人間福祉	7	1	8
人間環境情報	3	0	3
計	95	37	132

Q1. 本学(愛知みずほ大学)の名前を何で知りましたか。(複数回答可)

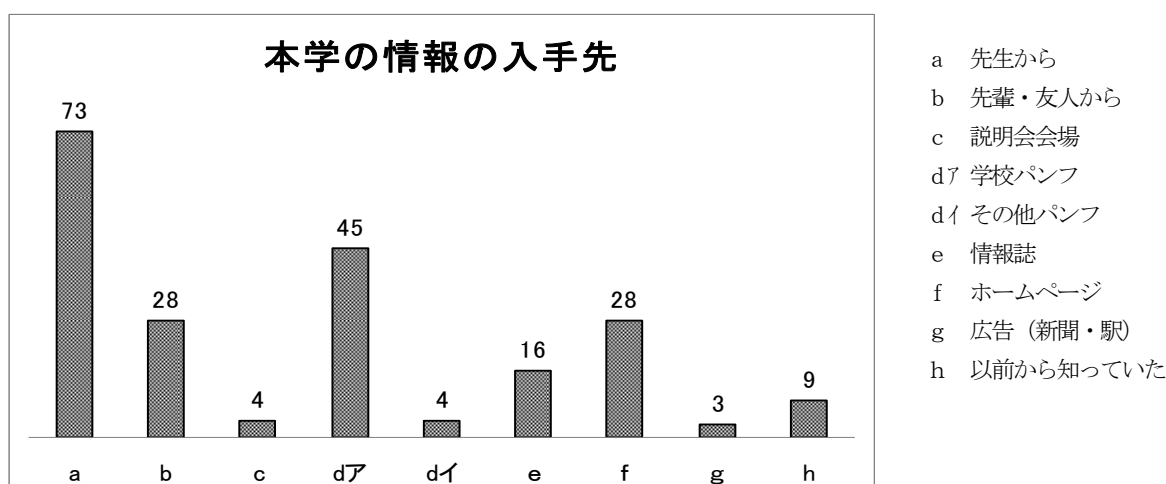


図1 本学の情報の入手先

全体としては、昨年と同じ傾向が見られた。本学(愛知みずほ大学)の名前を知った情報源は、在学している学校の「先生からの情報」と答えた学生が最も多く、つづいて「学校でみたパンフレット」、「先輩・友人の進め」、「ホームページを見て」という回答が多かった。また、学外での情報源としては「ホームページを見て」が最も多く、次は「情報雑誌の大学案内資料を見て」、「新聞広告や駅での広告を見て」と続く。ホームページは昨年と同様5人に1人が見ている。徐々に割合は増えている。

Q2. あなたが本学を選んだ理由は何ですか。(複数回答可)

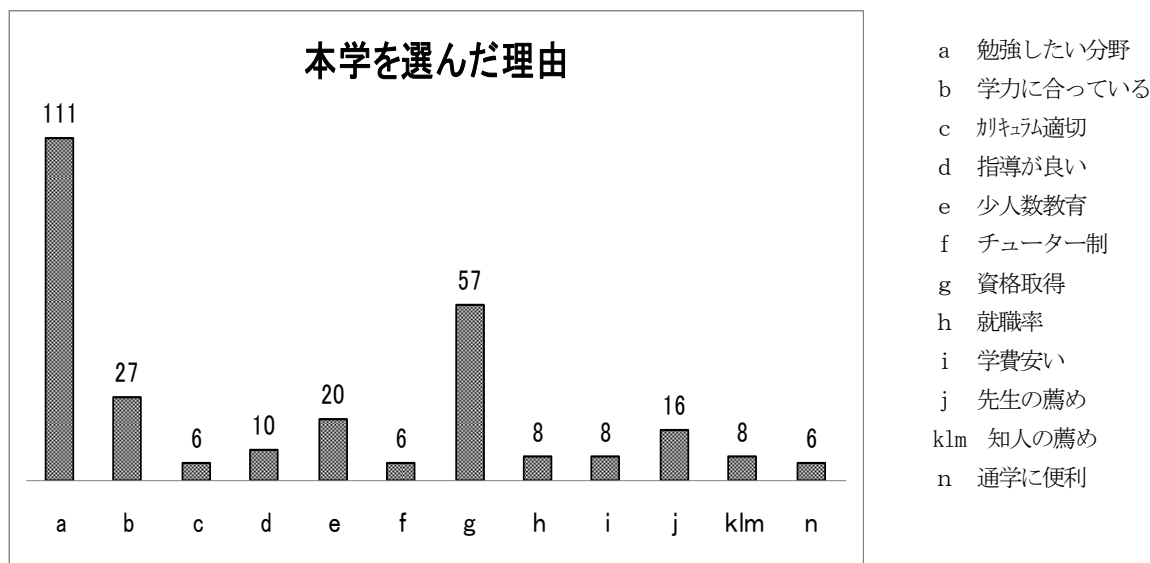


図2 本学を選んだ理由

ここでも全体としては、前年度と同様の傾向が見られた。学生が本学を選んだ理由としては、「自分が勉強したい分野である」と答えた学生が最も多く、続いて「目指す資格を取得するため」、「自分の学力に合っている」「少人数教育に関心を持ったので」、「先生の薦め」という回答が多かった。アンケートの結果では「自分が勉強したい分野である」、「目指す資格を取得するため」と回答した学生が突出して多く（昨年度も同様）、自分の将来に向け目的意識を持って入学している学生が大半であるといえる。一方、「カリキュラムの内容が適切」と回答した学生は6名しか居なかった。まだ入学以前（アンケートは入学前に記入してもらった）の学生にとってはカリキュラムの内容まではよくわからないのも当然かもしれない。しかし、昨年より人数が増えたのは（4名→6名）パンフレットなどの説明や、募集活動が功を奏したのかもしれない。

g「資格取得のため」本学を選んだ学生たちが目指す資格は以下の通りである。

表2 コースごと目指す資格

	教員免許	保健体育	養護	スポーツ関係	医療関係	社会福祉士	心理士	精神保健	合計
健康	5	9	12		2				28
心理			8				6		14
福祉 環境						1		1	1
合計	5	9	20		2	0	1	6	43

取得したい資格の内容は、教員免許では①養護教諭20名②保健体育9名③教員免許（種類の記載なし）5名。教員資格は健康コースでは26名（コース内33%昨年49%より減少）が希望している。全体としても何らかの資格を取得したくて入学（編入も含む）した学生の割合は33%で、昨年の49%より少なくなっている。

Q3. あなたは、入学したら参加したい部、サークルがありますか。

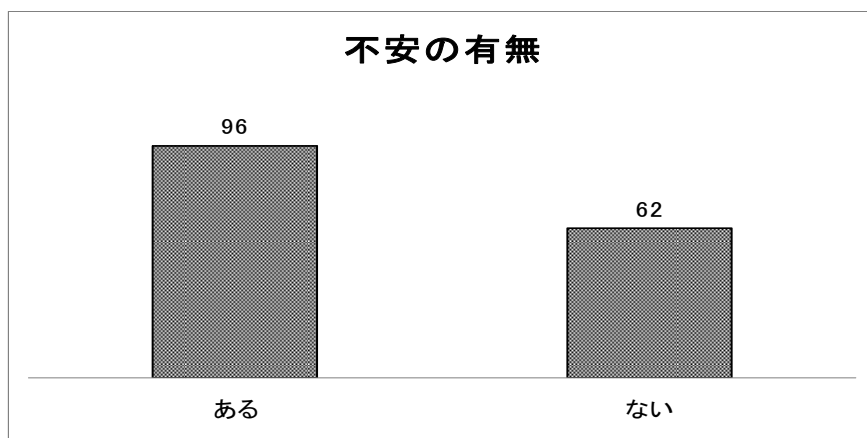
表3 参加したい部、サークルの内訳

学内	人数	学外	人数
バスケットボール部	10	女子サッカーチーム	1
サッカー部	7	吹奏楽部	1
テニス部	3		

野球部	2
バドミントン	2
バレーボール部	2
軽音楽部	2
フットサル部	1
ダンス部	1
スポーツサークル	1
水泳部	1
計	32

部活への参加意欲は昨年56名が32名になったが、割合から見ると少しの減少である。(昨年27%、今年24%)

Q4. 現在、あなたが不安に思うことはありますか。



(あるに○をつけた学生は複数の不安をもっているため
“ある” + “ない” はデータ総数より多い)

図3 不安の有無

次にあると答えた内容を新生入・編入生で分析した。

a ある (ア学習 イ心身 ウ友人づくり エ経済 オその他) b ない (下図)

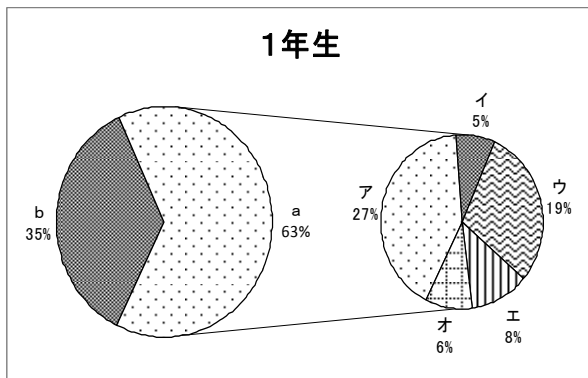


図4 1年生の不安

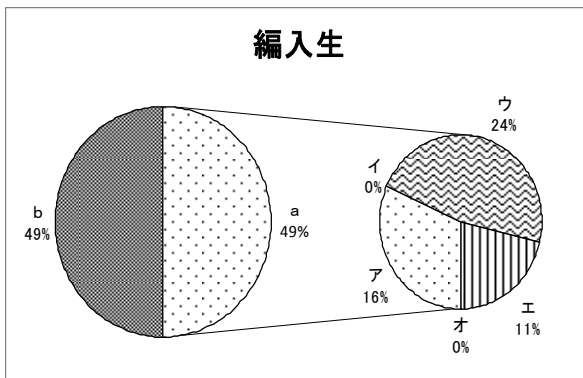


図5 編入生の不安

現在抱えている不安の割合は、新生入の方が多結果になった。1年生は学習面に一番不安を感じており、編入生は友人づくりに不安を感じている。

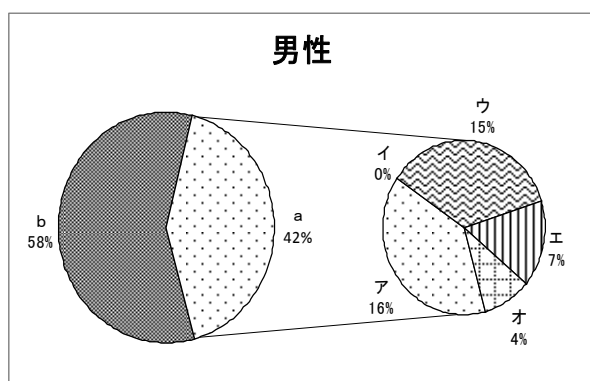


図6 男性の不安

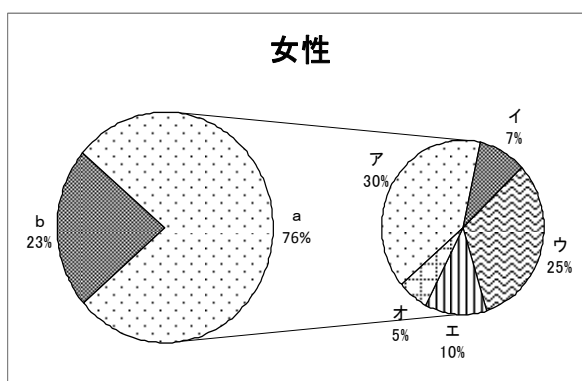


図7 女性の不安

男女別では、女性が男性より不安を抱えていることがうかがえる。その内容はどちらも学習面の不安が一番大きい友人づくりの不安も大きいようだ。

不安の内容の具体的記述は73件（1人あたり0.6件）で、ア「学習関係」22.7%、ウ「友人づくり」17.4%、エ「経済的問題」6.8%、イ「心身の健康」2.3%、オ「その他」55.3%である。

表4 不安項目ごとのコース内の割合

	学習		心身		友人		経済		その他	
健康	14	30.4%	4	8.7%	11	23.9%	3	6.5%	3	6.5%
心理	15	38.5%	2	5.1%	11	28.2%	5	12.8%	4	10.3%
福祉	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
環境	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
編入	6	16.2%	0	0.0%	9	24.3%	4	10.8%	0	0.0%

*網掛け部分は項目内で一番高いコース内の割合。

悩みごとをコースごとに分析してみると、学習面では心理コースが、心身の面では健康コースがそれぞれ高い値を示している。ただし福祉、環境は全体数が少ないので統計の意味はない。前年現われていた心理の学生の精神的弱さ、編入生の経済的困難さは、今回は現れていない。学生たちが一番悩んでいるのは学習面で3割の学生が不安に思っている。

次が友人づくりで詳細は表7のようである。

経済に関しては3番目に多い悩みであるが、これは件数は少なくとも深刻な悩みであるようだ。

全般をとおして目立つ不安要素は、“一人暮らし”と“遠距離通学”である。下宿をする学生にとって初めての一人暮らしを不安に思っていることが心身面、経済面、その他の不安に現われており、これがかなり学生たちにとっては負担であるようだ。もう一つの遠距離通学は、通学に時間がかかるため、アルバイト時間、学習時間を持ってないことを心配しており、さらに交通費の不安が経済面に表れている。下宿生、通学生それぞれ悩みがある。

表5 「学習関係の不安」の内訳

勉強についていけるか	14
2年で資格が取れるか	3
履修の仕方	3
英語が苦手	2
パソコンが使えない	2
遠距離通学	1
科目が多い	1
科目の内容	1

単位取得できるか	1
ノートの取り方	1
レポートが多いらしいので不安	1
計	30

昨年は、“英語についていけるか”が11名と2番目に多かった。一昨年度も2番目だったが今回は2名と減っている。新たに、パソコンが使えないという不安を抱えた学生が2名いた。“2年で資格が取得できるか”は編入生からで2年間で必要単位が取れるか心配している。これは昨年と同じである。

表6 「心身の不安」の内訳

1人で全てのことができるかどうか	1
冬の寒さの過ごし方	1
初めての一人暮らし	1
計	3

悩みの件数は3件と他項目よりは少ない。ここでは、心配の内容は、初めての一人暮らしでやっていけるか心配している。しかし、この回答は氷山の一角と思われる。現に心理コースの学生から悩み事を相談されるが、多くの学生が深刻な悩みを抱えており、このアンケートには書くのをためらうほど（例、過呼吸症候群、うつ病、不安神経症など）悩んでいる学生が居るのが実情である。この悩みのため休学したり、退学していく学生が予想以上に多く存在する。大きな問題である。

表7 「友人づくり」の不安の内訳

編入なのでなじめるか	6
人見知りなので	5
知り合いがいないので少し不安	4
友達ができるか	3
人付き合いが苦手だから友人が出来るか不安	1
良い仲間に出会えるか	1
根暗なので	1
溶け込めるか	1
今まで友人ができなかった	1
計	17

人見知りなので良い友人ができるかどうか心配している。過去に友人ができなかった、根暗であると自分の性格を客観的にみて不安を感じているようだ。似たような心配をしている学生同士が良い友人となっている様子が垣間見られる場面もある。

昨年同様、編入生がなじめるか心配しているが、やはり年齢の壁があるのか、編入生同士で固まっているように見受けられる。入学生の方でも一緒に授業を受けていても、年齢が上なので、遠慮をしているようだ。

表8 「経済的問題」の不安の内訳

学費を払えるか	4
自炊していけるか	1
奨学金をもらえるか	1
交通費	1
計	7

昨年よりコメント数は減った（21件→7件）が、経済面の不安は減少したとは思えない。学費が払えるか、奨学金をもらえるか不安に思っている。ここでも一人暮らしができるか心配している。

表9 「その他」の不安の内訳

1人暮らし	3
通学時間が長いことが不安	2
全てに不安	1
留年しないか	1
計	7

遠距離通学については昨年が4件だった。今年は2件と減っているが、改善された訳ではない。ここでも一人暮らしが不安が3件もあり、初めての下宿生活は想像以上の重圧のようだ。下宿生にはその点、気を配ってやらなければならないし、一方通学生には遠距離通学を心配してやらなければならない。

Q5. あなたは現時点で、卒業後の方向についてどう考えていますか

「何らかの方向を考えている」が82%である。

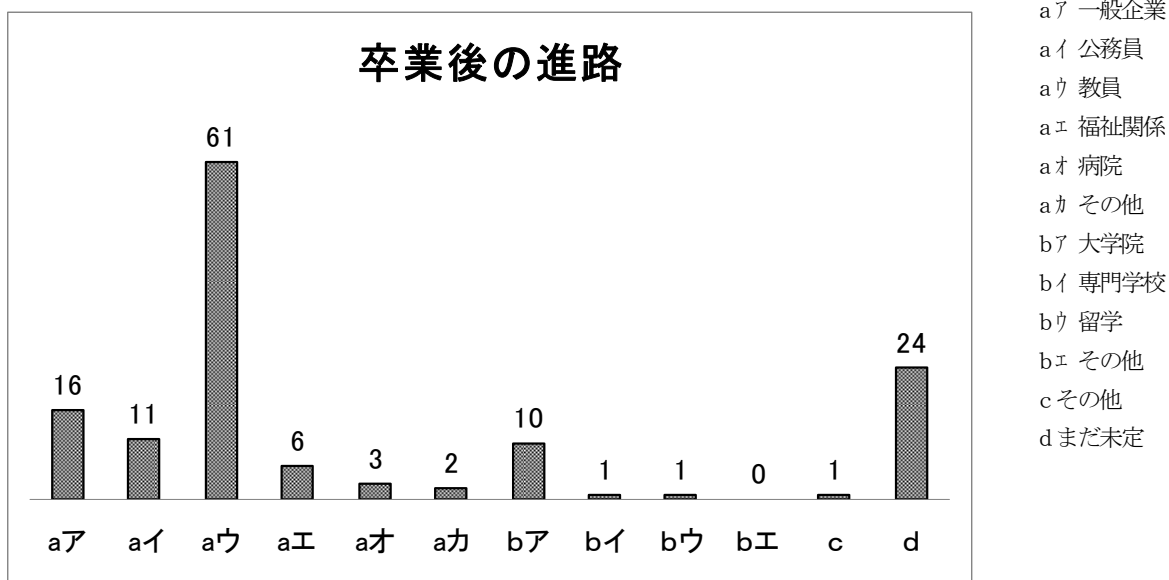


図8 卒業後の進路

卒業後の進路で「就職する」と答えた学生で、就職したい先を「教職」としている学生が最も多く（61名）、つづいて「一般企業」、「公務員」という結果となった。この順位は昨年と同じである。表2の目指す資格のところでは教員資格は34名が目指していたが、ここでは61名が卒業後の進路を教師としている。昨年も目指しているのは82名で、109名が卒業後の進路を教師と記入している。矛盾しているようだが、希望は教師だが資格を目指すのは容易ではないという気持ちがこの数字に表れているのかもしれない。

a 就職する（ア～カは上のグラフに対応） b 進学する c その他 d まだ考えていない（下図）

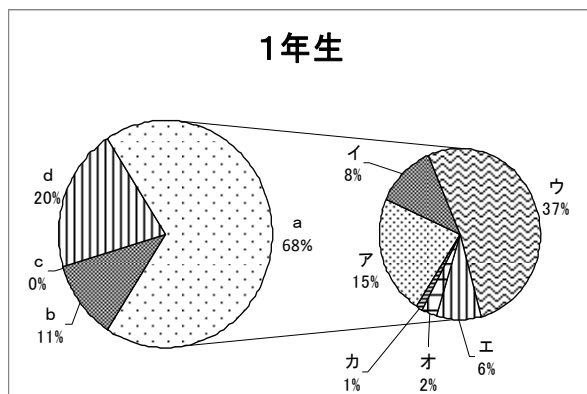


図9 卒業後の進路1年生

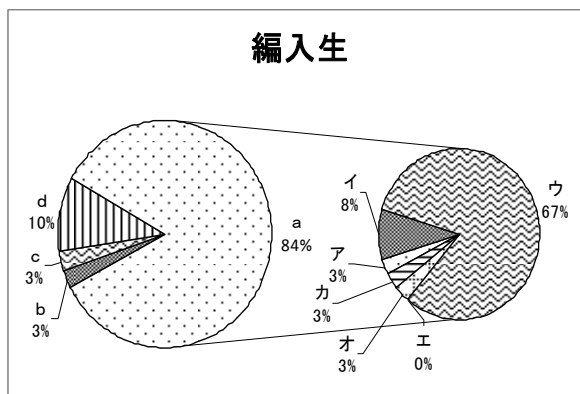


図10 卒業後の進路編入生

卒業後の進路に対しては、編入生は「就職する」と答えた学生の割合が1年生より16%高くなっている。教員志望も30%多く、教員になるつもりで編入してきたことがわかる。一方、まだ考えていないという学生は1年生の方に多い。

Q6 その他何かあったら書いてください。

表10 その他

野球ガンバリます。

これから2年間よろしくお願いします

プロボクサーとしていけるところまでやりたい

大学院へ行き臨床心理士資格を取りたい

親に大変負担をかけたので、学生生活を充実させ首席で卒業したい

2007年度新入生の学生アンケート調査は、全体的に昨年度と傾向は同じであるが全体の学生数が減少したので、統計処理できない場合もあった。本学に入学した目的は、自分にあった分野、自分にあった学力で資格取得ができるからである。入学の動機は先生（高校、専門学校）に勧められたが一番多く、大学のパンフレット、大学のホームページと続く。ホームページの重要性はますます増してきており、その内容が注目されてきている。

約半数の学生が教師を目指しているが、免許取得の勉強についていけるか不安を抱えている。心身の不安、特に心理面の不安は直接アンケートには書かれていないが、実情は大変な悩みを抱えていることが察せられることが多いので、我々教師側は、きめこまかな観察と支援、指導をしなければならないと思う。

参考：2005年4月実施学生アンケート調査の結果報告、瀬木学園紀要第1号—2007

